

短大特任教員教育研究業績書

平成 30年 4月 16日

氏名	ふりがな	所属	職位	性別
岡元 実和	おかもと みわ	保育学科 通信教育課程	助教	女

担当科目名

「音楽表現ⅠA」「音楽表現ⅠB」「音楽表現Ⅱ」

学歴

平成8年4月	国立音楽大学音楽学部声楽学科入学	
平成12年3月	国立音楽大学音楽学部声楽学科卒業	音楽学士
平成16年8月	ムジカバロックエウロペオ オルテ	ディプロマート
平成25年4月	北翔大学大学院生涯学習学研究科入学	
平成27年3月	北翔大学大学院生涯学習学研究科修了	生涯学習学修士

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
サンロッコアカデミアオーケストラ	平成11年4月～平成19年4月	専属ソプラノ歌手としてイタリア国内にて歌手活動を行う
クラヴィチェンバリスティカボローニャ音楽院	平成17年9月～平成20年9月	クラヴィチェンバリスティカボローニャ音楽院 非常勤講師
北翔大学生涯学習システム学部学習コーチング学科	平成25年4月～平成26年4月	北翔大学生涯学習システム学部学習コーチング学科非常勤講師
北翔大学生涯学習システム学部芸術メディア学科	平成25年4月～平成26年4月	北翔大学生涯学習システム学部芸術メディア学科非常勤講師
北翔大学生涯学習システム学科学習コーチング学科	平成25年4月～平成27年4月	北翔大学生涯学習システム学科学習コーチング学科非常勤講師
北翔大学北方圏学術情報センター学外研究員	平成25年4月～平成27年4月	北翔大学北方圏学術情報センター学外研究員(共同研究プロジェクト舞台芸術研究グループ)
北翔大学生涯学習システム学科学習コーチング学科	平成26年4月～平成27年4月	北翔大学生涯学習システム学科学習コーチング学科 助手
小田原短期大学	平成28年4月～現在に至る	札幌教育センター 保育学科通信教育課程 助教

所属学会等

名称	活動期間	活動内容(役職等の活動を含む)
日本音楽教育学会	平成26年10月～現在に至る	日本音楽教育学会 会員として北海道地区例会 論文発表
日本音楽表現学会	平成26年10月～現在に至る	日本音楽表現学会 会員
北海道人格教育協議会	平成26年4月～現在に至る	北海道人格教育協議会 会員
日本学校心理士会	平成26年4月～現在に至る	日本学校心理士会 学校心理士(補)

社会活動等

名称	活動期間	活動内容
北広島少年少女合唱団	平成25年9月～現在に至る	社会教育団体における音楽教育活動(指導、指揮)を行う
日本音楽教育学会	平成25年8月より計4回	日本音楽教育学会において論文発表を行う
北海道大学総合博物館ポブラチェンバロボランティア	平成25年5月～25年5月	北海道大学総合博物館ポブラチェンバロを用いた実演活動を行う
北広島市音楽協会アーティスト	平成25年9月～現在に至る	地域における芸術文化活動の一環として演奏を行う

北方圏学術情報センター	平成26年10月～現在に至る	舞台芸術研究活動として演奏を行う
北海道少年少女合唱連盟	平成28年1月	北海道少年少女合唱連盟主催、北海道少年少女合唱祭において総勢300名以上の合唱団員に合唱指導指揮を行う
北海道全空知音楽教育連盟第60回音楽教育研究大会	平成29年11月	北海道全空知の音楽教員を対象にした研修会において小中学校歌唱共通教材の効果的な指導方法について外部講師を務める

担当教科目に関する資格・免許等

名称	取得年月	取得機関
学校心理士(補)	27年3月	日本学校心理士一般社団法人 学校心理士認定運営機構
中学校教員教職免許 第1種音楽(専修)	27年3月	北海道教育委員会
高等学校教員教職免許 第1種音楽(専修)	27年3月	北海道教育委員会

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 「ペルカウゾディ ファリネッリ」	単著	平成17年9月	アソチャツィオーネ クラヴィチェンバリ スティカボローニヤ Vol.7	西洋音楽史におけるバロック時代(1705～1782年)に実在した歌手、カルロブロスキ・ファリネッリ(変声前に虚勢手術を施され子どもの声を保ったまま成人し美しい声のソプラノ歌手として生きた男性)の歌唱技術、背景、訓練方法及び、彼の師匠であるポルポラによって残された楽譜等の考察を行っている。結論として現代における声楽の教育現場へ、ベルカント発声を重要視した指導法を提案している。
(学術論文) 「声楽指導におけるソルフエッジョの考察」(17世紀からのイタリアにおけるソルフエッジョより)	単著	平成24年3月	北翔大学生涯学習システム学部研究紀要 第4号	ソルフエッジョ(伊語)の持つ学習目的をニコラ・アントニオ・ポルポラの歌唱原理に基づき考察している。通奏低音を用いた歌唱訓練の特徴である和声感が、曲の与える感性を変化させることに着目し、現代における歌唱の指導現場へ日本で流用するソルフエッジョとは別の意味を持つソルフエッジョの導入を提案している。
(学術論文) 「声楽における指導法の考察」(心身の連繋と心象表現)	単著	平成27年3月	日本音楽教育学会平成26年度8月日本音楽教育学会北海道地区例会 発表	身体を楽器に用いる声楽を指導するにあたって必要となる発声器官等の身体の在り方及び発達の特徴を整理している。心理的要因と歌唱のつながりに着目し歌唱時における心象の重要性、中でGioia(伊語)の重要性を音楽教育心理学、音楽心理学、音楽教育の3つの視点より明らかにした。コ・アクティブ・コーチング並びにわざの伝承の2つの視点より声楽指導者の持つべきものをまとめ効率的な声楽指導法を提案している。
(査読付き論文) 「道徳的影響力を及ぼす歌唱指導の一考察」	単著	平成28年3月	北海道人格教育協議会研究紀要第1号	社会的な自己表現を前提とした集団での表現行為である合唱が持つ道徳的影響力に着目し、音楽教育が人格形成に与える影響の在り方を文献考察している。音楽教育が担う情操面の育成なしに、倫理的な問題を多く抱えた今日の日本に明るい未来が開けるとは考え難い。音楽の学習現場における課題の整理及び音楽と人

				格形成の関連についてまとめている。
(紀要論文) 「幼稚園教諭・保育士養成課程における学生と幼児の感性を共に育む音楽環境構成の一考察～第一報幼児の言葉を歌詞にして	単著	平成 29 年 3 月	小田原短期大学紀要論文第 47 号	幼児の言語表現である「言葉」を、概ね 6 歳児クラスにおいて取材し教材作成をした。その教材を幼稚園教諭養成課程の授業へ取り入れることにより、幼児期における「音楽表現」の在り方を整理した。さらに学習成果を園に向けてアウトプットすることで、学生・園児・園全体 3 つの観点を螺旋状に高めあう教育システムの開発を行う第 1 報とし報告している。
(紀要論文) 「幼稚園教諭・保育士養成課程における学生と幼児の感性を共に育む音楽環境構成の一考察～第 2 報主体的な感性の育ち	(単著)	平成 30 年 3 月	小田原短期大学紀要論文第 48 号	第 1 報を継続する第 2 報の報告と共に、保育者を目指す学生における音楽表現方法について考察を行った。SC を行う学生同士の関係性に注目することによって、学生間に生ずる関係性の芽生えと、その関係性が生み出す表現の発生と発展の動向を考察し、第 2 報として報告している。
その他 (表彰等)				
	平成 14 年 1 月	イタリアサンロッコアカデミア専属オーケストラ専属歌手合格		
	平成 14 年 1 月	イタリアパレルモ国際声学コンクールセミファイナリスト		
	平成 14 年 2 月	イタリアラヴェッロ国際声楽コンクールセミファイナリスト		
	平成 14 年 3 月	イタリアナポリアルバネーゼ国際コンクールセミファイナリスト		
	平成 14 年 4 月	イタリアピエロカブチリ記念国際声楽コンクールセミファイナリスト		
	平成 14 年 5 月	イタリアオペラリナータ国際コンクールセミファイナリスト		
	平成 14 年 6 月	イタリアトリノ国際声楽コンクールセミファイナリスト		
	平成 14 年 7 月	オルテバロックマスターコンコルソ 最優秀賞		
	平成 14 年 8 月	フランスコルマル市立ライン劇場専属歌手オーディション 1・2 次審査合格		
	平成 25 年 10 月	北広島文化貢献賞受賞 (北広島少年少女合唱団)		